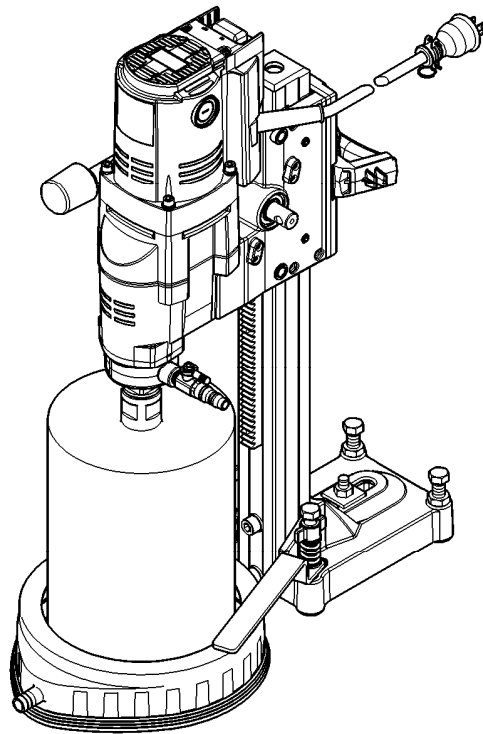




ダイヤコアドリル DM172

取扱説明書



本器はシングル絶縁構造ですので必ず接地（アース）してください。
マキタ製品は電気用安全法に基づく技術上の基準に適合、または準じて（電気用品安全法適用外の製品）製造されております。

このたびはマキタダイヤコアドリルをお買い上げ賜り厚くお礼申し上げます。

ご使用に先立ち、この取扱説明書をよく読みいただき本機の性能を十分にご理解の上で、適切な取り扱いと保持をしていただき、いつもでも安全に効率よくお使いくださるようお願い致します。

なお、この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。

注意文の「▲警告」、「▲注意」、「ポイント」の意味について

ご使用上の注意事項は「▲警告」、「▲注意」と「ポイント」に区分していますが、それぞれ次の意味を現します。

▲警告：誤った取扱いをした時に、使用者が死亡または、重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

▲注意：誤った取扱いをした時に、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

ポイント：製品の据付け、使用方法、メンテナンスに関する重要な事項。

なお、「▲注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますから、必ず守ってください。

製品の保管について

製品や付属品の保管

使用しない製品や付属品の保管場所として、下記のような場所は避け、安全で乾燥した場所に保管してください。

- ◇お子様の手がとどいたり、簡単に持ち出せる場所
- ◇鍵のかからない場所
- ◇軒先など雨がかったり、湿気のある場所
- ◇温度が急変する場所
- ◇直射日光のあたる場所
- ◇引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所

このような場所には保管しないでください。

本取扱説明書に記載されている商品の外観などの一部を予告なく変更している場合があります。

本文中では、「ダイヤコアドリル」のことを「コアドリル」、「ダイヤコアビット」のことを「コアビット」と記述しています。

目次

1. 警告 および 注意	
【1】 電動工具の安全上のご注意	2
【2】 コアドリルの使用上のご注意	5
2. 各部の名称	8
3. 仕様	9
4. 標準付属品	9
5. 別販売品のご紹介	10
6. 使用時全体図 および 仕様	
【1】 アンカーによる固定	11
【2】 真空パッドによる固定	12
7. キャリングケース収納状態	13
8. 使用方法	
【1】 アンカー施工	14
【2】 コアドリルの設置	15
【3】 コアビットの取付け	16
【4】 水処理パッドの取付け	17
【5】 排水処理の準備	17
【6】 給水の準備	18
【7】 穴あけ作業	19
【8】 穴あけ作業終了	20
9. 作業中のトラブルと対策	
【1】 作業中のトラブルと対策方法	21
【2】 コアビットがロックした場合の解決方法例	22
【3】 コアビットにセリが生じた場合の解決方法例	22
10. コア引抜き方法	23
11. 保守・点検・修理	
【1】 保守	24
【2】 点検	24
【3】 定期点検	24
【4】 修理について	25

1. 警告 および 注意

- ◎ 火災・感電・けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「電動工具の安全上のご注意」「コアドリルの使用上のご注意」を必ず守ってください。
- ◎ ご使用前に、この「警告および注意」すべてをよくお読みのうえ、指示に従って正しく使用してください。
- ◎ お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。
- ◎ 他の人に貸し出す場合は、いっしょに取扱説明書もお渡しください。

【1】 電動工具の安全上のご注意

▲ 警 告

1. 指定された用途以外には使用しないでください。
2. 作業員以外は施工場所へ近づけないでください。
 - ◎ 作業員以外、電動工具やコードに触れさせないでください。
3. 施工場所の周囲状況も考慮してください。
 - ◎ 電動工具は、雨中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
 - ◎ 施工場所は十分明るくしてください。
 - ◎ 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
 - ◎ ちらかった施工場所は、事故の原因となります。
4. きちんとした服装で作業してください。
 - ◎ だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがありますので着用しないでください。
 - ◎ 滑り止めのついたゴム手袋と履物を着用してください。
 - ◎ 長い髪は、帽子やヘアカバーなどで覆ってください。
5. 耳栓、耳覆い（イヤマフ）などの防音用保護具を着用してください。
 - ◎ 騒音が大きい場所では防音用保護具を着用してください。
6. 保護めがねを使用してください。
 - ◎ 作業時は保護めがねを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
7. 無理な姿勢で作業をしないでください。
 - ◎ 常に足元をしっかりとらせ、バランスを保つようにしてください。
8. 油断しないで十分注意して作業を行ってください。
 - ◎ 電動工具を使用する場合は、取扱方法・作業の仕方・周りの状況など十分に注意して慎重に作業してください。
 - ◎ 回転物には、手や身体を近づけないでください。巻き込まれたり、けがをする恐れがあります。
 - ◎ 可動部分や接続部分などに、手や足を挟まないように注意してください。
 - ◎ 疲れている場合は、使用しないでください。

▲ 警 告

9. 感電に注意してください。

- ◎ 電動工具を使用中、身体をアースされているものに接触させないようにしてください。
- ◎ 漏電遮断器の設置してある電源を使用してください。

10. コードを乱暴に扱わないでください。

- ◎ コードを持って電動工具を運ばないでください。
- ◎ コードを引張って電源コンセントから抜かないでください。
- ◎ コードを熱・油・角のとがった所に近づけないでください。

11. 指定の付属品や別販売品を使用してください。

- ◎ 本取扱説明書および当社のカatalogに記載されている付属品や別販売品以外のものを使用すると、事故やけがの原因となる恐れがあるので使用しないでください。

12. 集じん装置は接続できるものは接続して使用してください。

- ◎ 電動工具に集じん機などが接続できる場合は、これらの装置を確実に接続することで粉じんの人体への影響を軽減できます。

13. 材料を加工する工具では、材料をしっかりと固定してください。

- ◎ 材料を固定するために、クランプや万力などを利用してください。手で保持するより安全で電動工具を使用できます。（材料を動かして固定する場合は除く）

14. 損傷した部品がないか点検してください。

- ◎ 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動し、所定の機能を発揮するか確認してください。
- ◎ 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他運転に影響を及ぼす全ての箇所に異常がないか確認してください。
- ◎ 損傷・故障した部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。
- ◎ 取扱説明書に指示されていない場合は、お買い求めの販売店または、当社各営業所に修理を依頼してください。
- ◎ スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。
- ◎ スイッチが故障した場合は、お買い求めの販売店または、当社各営業所で修理を行ってください。
- ◎ 異常・故障時には、直ちに使用を停止してください。そのまま使用すると発煙・発火・感電・けがに至る恐れがあります。

<異常・故障例>

- ・電源コードや電源プラグが異常に熱い。
- ・電源コードに深いキズや変形がある。
- ・コードを動かすと、通電したりしなかったりする。
- ・焦げくさい臭いがする。
- ・ビリビリと電気を感じる

スイッチを入れても動かないなど、すぐに電源プラグを抜いてお買い上げの販売店または、当社各営業所へ点検、修理をお申し付けください。

▲ 警 告

- 15. 次の場合は電動工具のスイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。**
- ◎ 使用しない、または、修理する場合。
 - ◎ 刃物などの付属品を交換する場合。
 - ◎ その他危険が予想される場合。
- 16. 調節キーやレンチなどは、必ず取りはずしてください。**
- ◎ 電源を入れる前に、点検・調節に用いたキーやレンチなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。
- 17. 電動工具は注意深く手入れをしてください。**
- ◎ 付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
 - ◎ 握り部は、常に乾かしてきれいな状態に保ち、油やグリスが付かないようにしてください。
 - ◎ コードは定期的に点検し、損傷している場合は、お買い求めの販売店または、当社各営業所に修理を依頼してください。
 - ◎ 延長コードを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合には交換してください。
- 18. 安全に能率よく作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。**
- 19. 使用しない場合はきちんと保管してください。**
- ◎ 乾燥した場所でお子様の手の届かない安全な所または、錠のかかる所に保管してください。
- 20. 不意な始動は避けてください。**
- ◎ 電源コンセントにつないだ状態で運ばないでください。
 - ◎ 電源プラグを電源コンセントに差込む前に、スイッチが切れていることを確認してください。
- 21. 屋外使用に合った延長コードを使用してください。**
- ◎ 屋外で使用する場合、キャブタイヤコードまたは、キャブタイヤケーブルの延長コードを使用してください。
- 22. 作業に合った電動工具を使用してください。**
- ◎ 小型の電動工具やアタッチメントは、大型の電動工具で行う作業には使用しないでください。
- 23. 電動工具の修理は専門店で依頼してください。**
- ◎ 本製品は、該当する安全規格に適合していますので改造しないでください。
 - ◎ 修理の知識や技術のない方が修理しますと、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの原因となります。
 - ◎ 修理は、必ずお買い上げの販売店または、当社各営業所にお申し付けください。

【2】 コアドリルの使用上のご注意

⚠ 警告

1. 必ず接地（アース）してください。

- ・故障や漏電の時、感電する原因になります。
- ・接地は、プラグの横から出ているアースクリップをアース線に接続してください。
- ・3ピンプラグ（アースピン可倒式）の場合は、電源コンセントに合わせて、接地（アース）してください。
- ・アース付（3ピン）電源コンセントの場合
3ピンプラグを電源コンセントに差し込んでください。
（アースクリップによる接地（アース）は不要）
- ・2極電源コンセントの場合
アースクリップをアース線に接続してください。
- ・アースクリップやアースピン、アース線に異常がないか確認してください。
- ・テスターや絶縁抵抗計をお持ちでしたら、アースクリップ、アースピンと機械本体の金属（外郭部）間の導通を確認してください。
- ・アース棒やアース板を地中に埋め込み、アース線を接続するような電気工事は、電気工事士の資格が必要ですので最寄りの電気工事店に相談してください。
- ・接地と共に感電防止用漏電しゃ断器の設置された電源に、接続されますことをお奨めします。
- ・漏電しゃ断器や接地については、次の法規がありますので、ご参照ください。

※労働安全衛生規則 第333条・第334条

※電気設備の技術基準 第18条・第28条・第41条

2. アース線をガス管に接続しないでください。

- ・爆発の恐れがあります。

3. つなぎコードを使用するときは、アース線を備えた3芯コードを、使用してください。

- ・アース線のない2芯コードですと、感電の原因になります。

4. 使用電源は、銘板に表示してある電圧で使用してください。

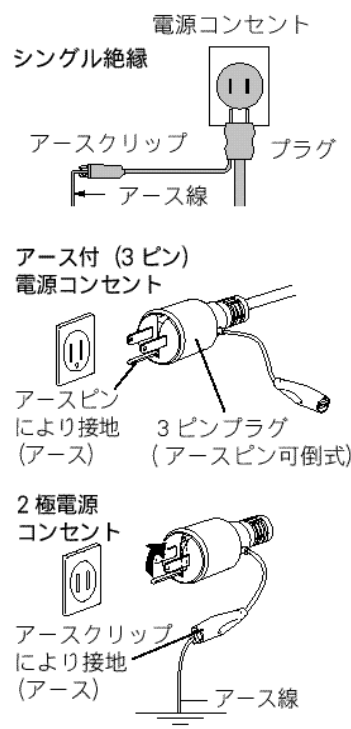
- ・表示を超える電圧で使用すると、回転が異常に高速となり、けがの原因になります。

5. 電線管などの埋設物に注意してください。

- ◎ 電気が流れている電線や電線管などに接触すると感電する恐れがあります。
- ◎ 壁・床などに穴あけを行う場合は、埋設物のチェックを十分に行ってください。

6. ゴム手袋・ゴム長靴は必ず着用してください。

- ◎ 本機は水を使用するため、作業中は必ずゴム手袋・ゴム長靴を着用してください。
巻き込まれたり、けがをする恐れがあり危険です。



▲ 警 告

7. 天井面への作業はしないでください。

◎本製品は水を使用するため、天井面への穴あけは水がモータに入り、非常に危険です。

8. 高所での作業は関係法令に従って作業してください。

- ◎ 安全な足場を確保して、足場より1.5m以上での作業はしないでください。
- ◎ 高所での作業の場合は、十分にスペースのあるしっかりした足場を確保してください。
- ◎ 高所での作業の場合は、施工場所の下に人を入れないようにしてください。

9. 貫通側の安全面に注意してください。

◎ 貫通穴あけ時に切削コアがコアビット内から抜け落ちたり、切削水が漏れたりすることがありますので、人や物にあたらないように、防護対策や処理方法を確実にいき、作業を始めてください。

10. ポールベースはしっかり固定してください。

◎ 正しく固定することは非常に重要です。固定がきちんとは行われていないと、切削中にガタついたり、かみこんだりして、コアビットが損傷する恐れがあります。

11. 水処理パッドは必ず使用してください。

- ◎ 作業中に水が飛散して、モータ内部に水が入るのを防止するためにも、水処理パッドは必ず使用してください。
- ◎ 水処理パッドを使用する時は、水漏れがないようにしっかりと取付けてください。

12. 回転中のコアビット・メインシャフトには絶対に触れないでください。

◎ 回転中のコアビットやメインシャフトには、手や身体を近づけないでください。

13. モータの風穴をふさいだり、風穴に物を入れないでください。

14. 無理して使用しないでください。

◎ 安全に能率よく作業するためには、機器の能力に合った仕様で作業してください。

15. 異常時にはただちにスイッチを切ってください。

◎ 切削中にコアビットが止まったり、異音を発した時は、ただちにスイッチを切ってください。

16. シリカ、石綿（アスベスト）は人体に有害です。このような成分を含んだ材料に穴あけをするときは、関係法令に従って防じん対策をしてください。

17. 突起物のあるコアビットは、使用しないでください。

◎ 回転物に突起物があると、巻き込まれたりけがをする危険性があります。

18. 最大ビット呼径を超えるコアビットは、使用しないでください。

⚠ 注意

1. 穴あけをする時は必ず給水を行ってください。
 - ◎ コアビットは過熱すると、寿命が短くなり切削能率も低下しますので、必ず給水を行ってください。
 - ◎ 清水以外の水を使用すると、コアドリルの故障の原因となります。必ず清水を使用してください。
2. コアビットが穴あけ面に接した状態で、モータを回転させないでください。
 - ◎ コアビットやコアドリルの破損の原因となります。
3. 穴あけ作業は回転が上がってから行ってください。
 - ◎ 穴あけ作業はスイッチを入れ、コアビットの回転が完全に上がってから行ってください。
4. 穴あけ途中で送りハンドルに無理な力をかけコアビットの回転を止めたり、コアビットをロックさせたりしないでください。
 - ◎ コアビットのチップの破損や、コアドリルの破損の恐れがあります。
5. 送りハンドルから手を離す時は、必ずロックダイヤルを締めてドリルヘッドを固定してください。
6. ロックダイヤルをゆるめる時は、必ず送りハンドルを持ち、ドリルヘッドが動かないようにして行ってください。
7. 電源が離れていて、延長コードが必要なときは、本器の最高の能で支障なくご使用していただくために十分な太さのコードをできるだけ短くお使いください。

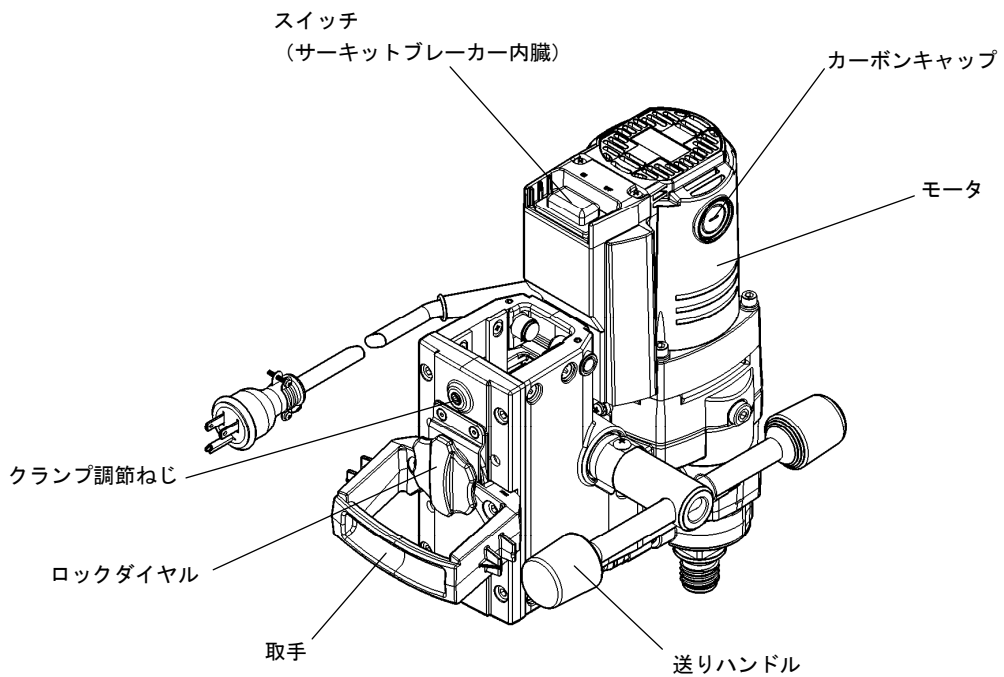
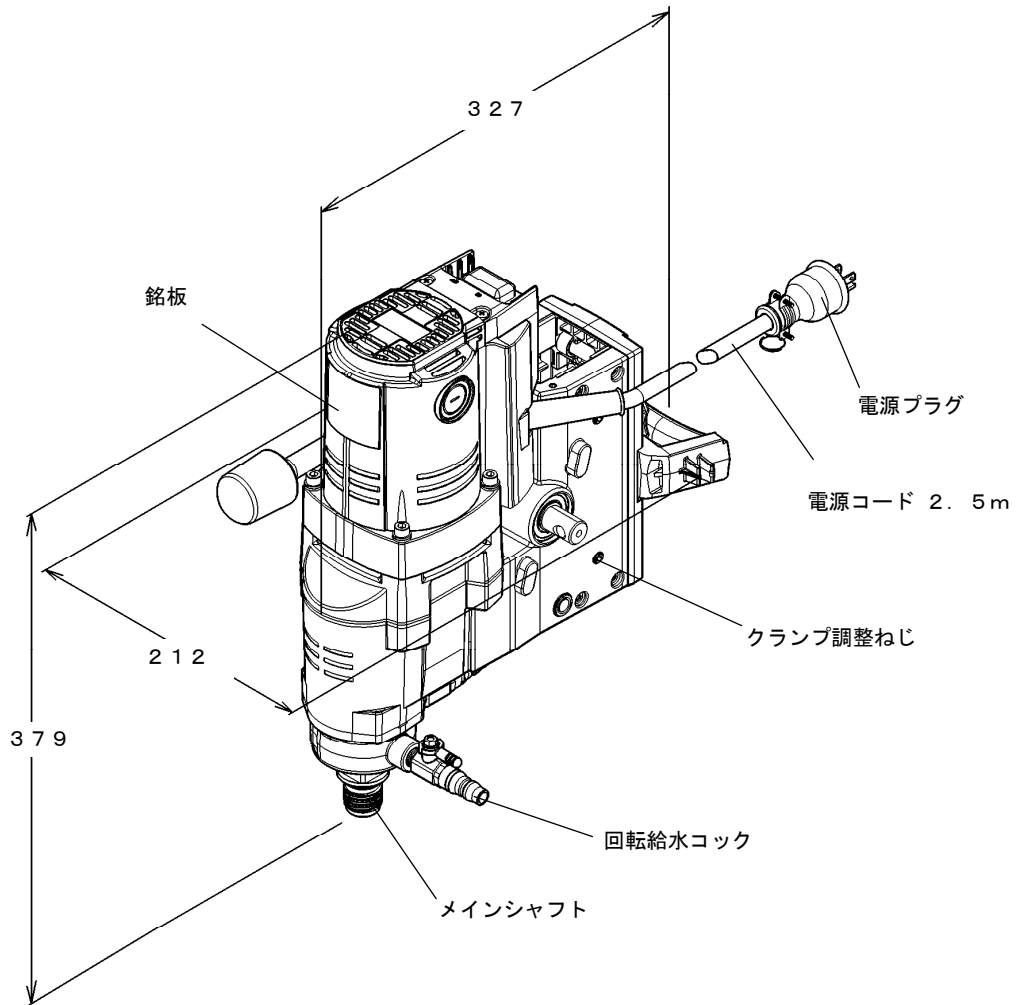
◎使用できる延長コードの太さ（公称断面積）と長さの目安

コード太さ (導体公称断面積)	銘板記載の定格電流値で使用する長さの目安		
	～5 A	5～10 A	10～15 A
2.0 mm ²	50 m	30 m	20 m

・延長コードは本機のコードと同じような被ふくを施したコードを使用してください。

8. コアドリルのご使用に際しては、漏電遮断機のご使用をお勧めいたします。

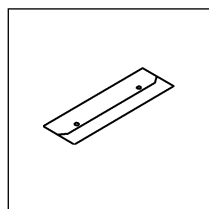
2. 各部の名称



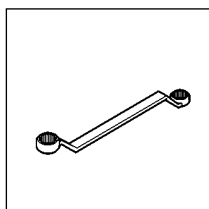
3. 仕様

型式名	DM172
電動機	直巻整流子電動機
使用電源	単相交流 50/60Hz 電圧100V
定格電流	15A
消費電力	1430W
無負荷回転速度	900min ⁻¹
標準コアビット呼径	14.5~170mm
最大コアビット呼径	180mm
コアビット取付ねじ	M27ねじ
質量 (コードを除く)	14.1kg

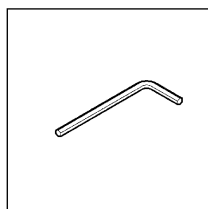
4. 標準付属品



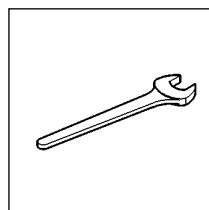
工具袋
・・・1ケ



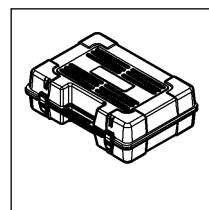
メガネレンチ
17×21mm
・・・1ケ



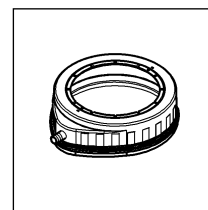
六角棒レンチ
4mm
・・・1ケ



片ロスパナ
36mm
・・・各2ケ



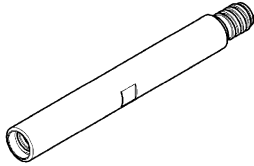
キャリングケース
・・・1ケ



水処理パッド
A-57146
・・・1ケ

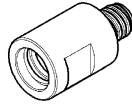
5. 別販売品のご紹介

延長バー：A-11807



深穴をあける時に使用します。

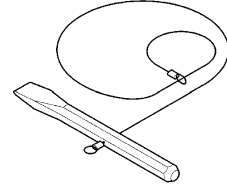
レジャーサ



A-57847：M27→M18
A-57853：M27→Cロット
A-57869：M27→Aロット

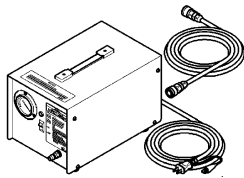
各種コアビット取付けねじに対応できます。

エキシボタガネ仕様組
：SC00000447



タガネで切削コアを折り、ワイヤーでコアを抜取ります。

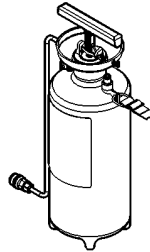
真空ポンプ：A-57124



12kg

バキュームパッドを吸着させる
ときに用います。

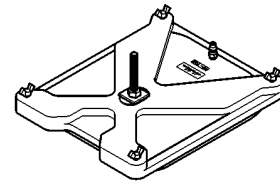
水タンク：A-57439



2.6kg

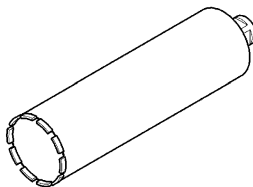
給水の不便な場所で使用します。
タンク容量は7リットルで、空気
圧により高所へも注水できます。

真空パッド：A-57168



アンカー施工できない場所に、
ポールベースを簡易に吸着固定
することができます。

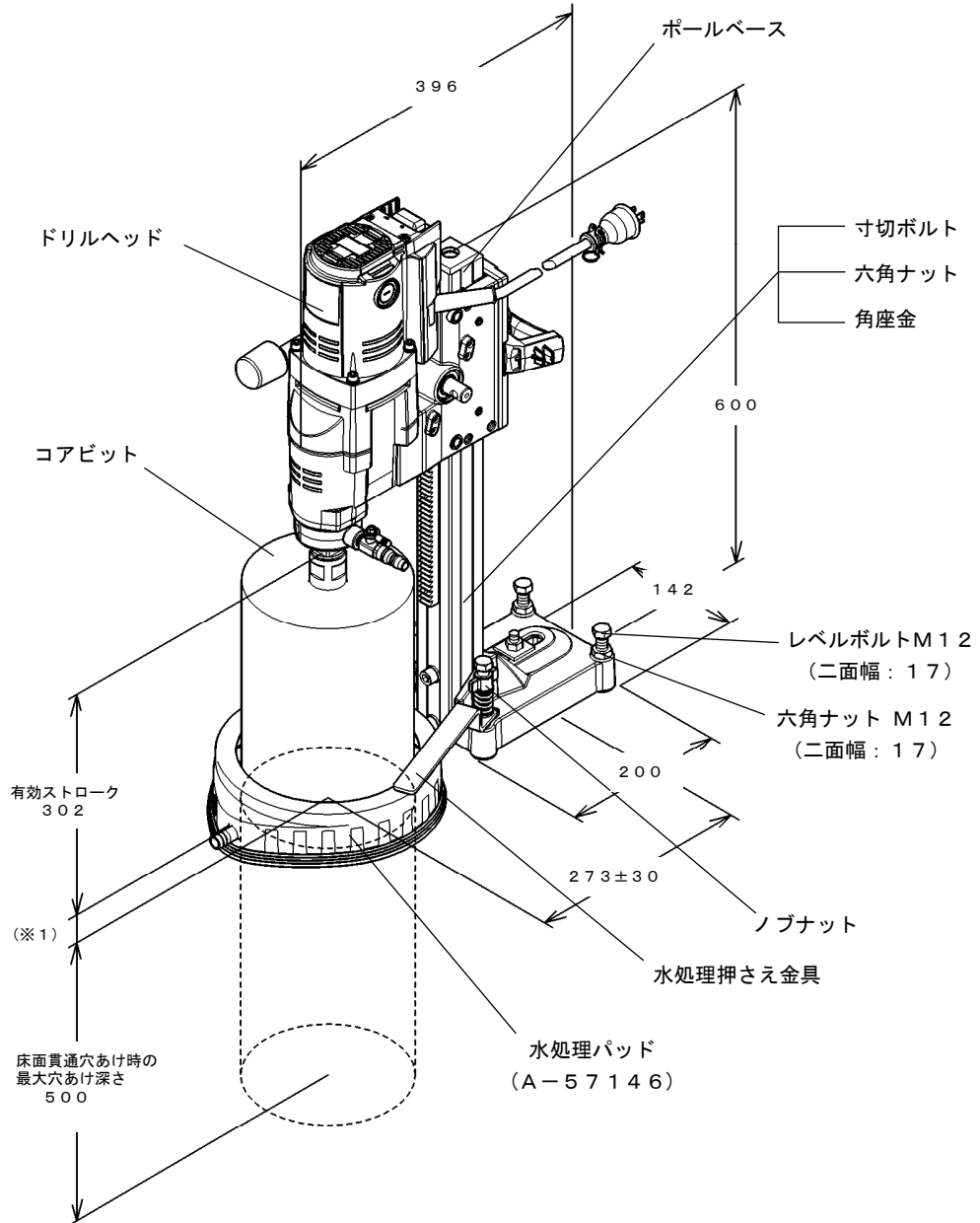
コアビット



穴あけ能力 外径×深さ (mm)	部品番号	適用モデル
φ14.5 × 260	A-57598	DM122/DM172
φ15 × 260	A-57607	DM122/DM172
φ19 × 260	A-57613	DM122/DM172
φ22 × 260	A-57629	DM122/DM172
φ25 × 260	A-57635	DM122/DM172
φ27 × 260	A-57641	DM122/DM172
φ32 × 260	A-57657	DM122/DM172
φ40 × 260	A-57663	DM122/DM172
φ52 × 260	A-57679	DM122/DM172
φ56 × 260	A-57685	DM122/DM172
φ65 × 260	A-57691	DM122/DM172
φ70 × 260	A-57700	DM122/DM172
φ75 × 260	A-57716	DM122/DM172
φ80 × 260	A-57722	DM122/DM172
φ90 × 260	A-57738	DM122/DM172
φ100 × 260	A-57744	DM122/DM172
φ106 × 260	A-57750	DM122/DM172
φ110 × 260	A-57766	DM122/DM172
φ120 × 260	A-57772	DM122/DM172
φ130 × 260	A-57788	DM122/DM172
φ150 × 260	A-57794	DM122/DM172
φ160 × 260	A-57803	DM122/DM172
φ170 × 260	A-57819	DM172
φ180 × 260	A-57825	DM172

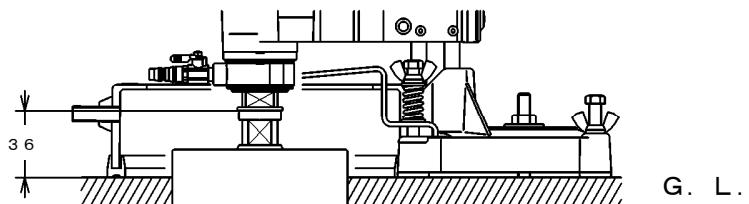
6. 使用時全体図および仕様

【1】 アンカーによる固定

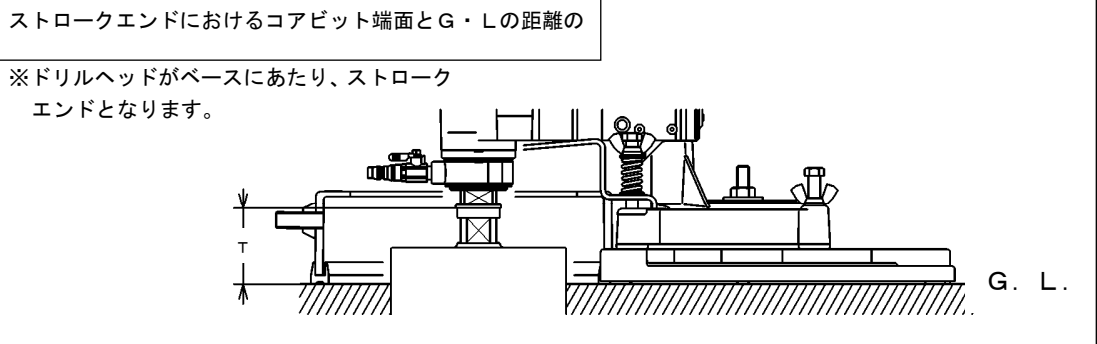
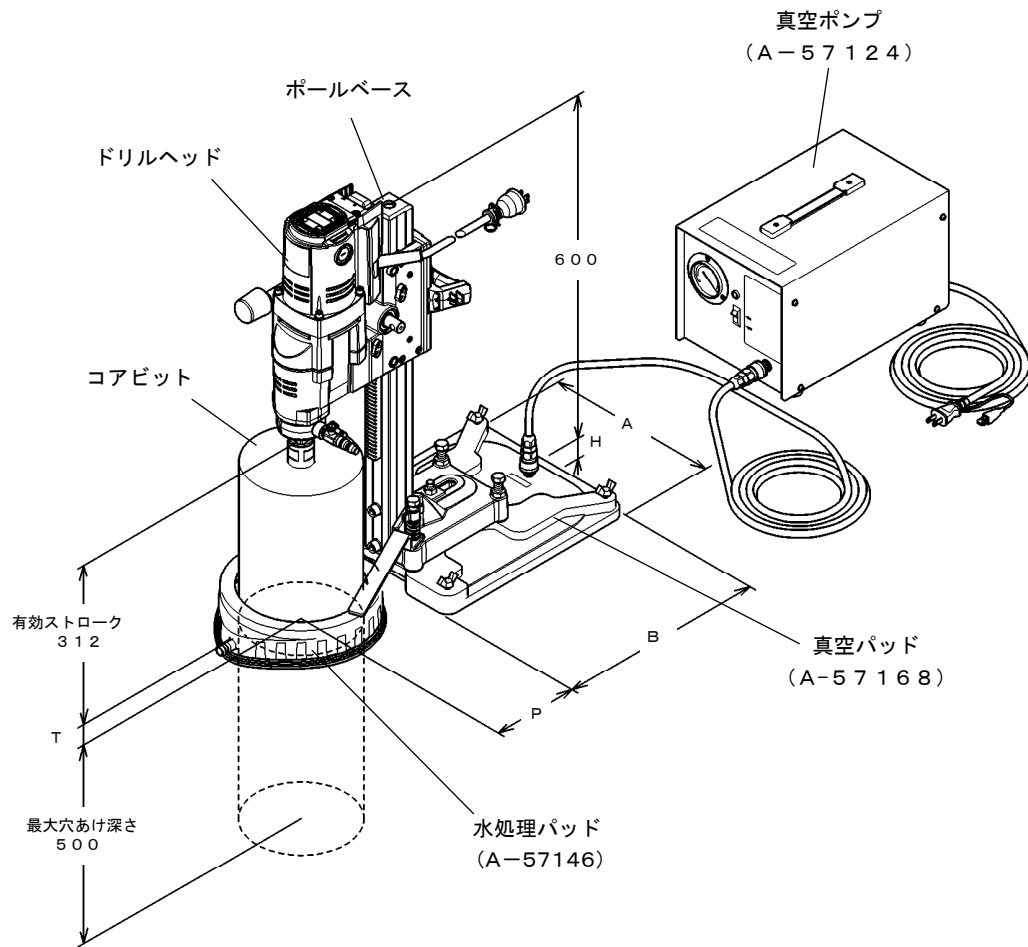


ストロークエンドにおけるコアビット端面とG・Lの距離の

※給水コックが水処理パッドにあたり、ストロークエンドとなります。



【2】真空パッドによる固定



型式名	A×B×H (mm)	T寸法 (mm)	P寸法 (mm)	吸着力	用途
A-57168	300×360×35	57	91~145	約6kN	平面吸着

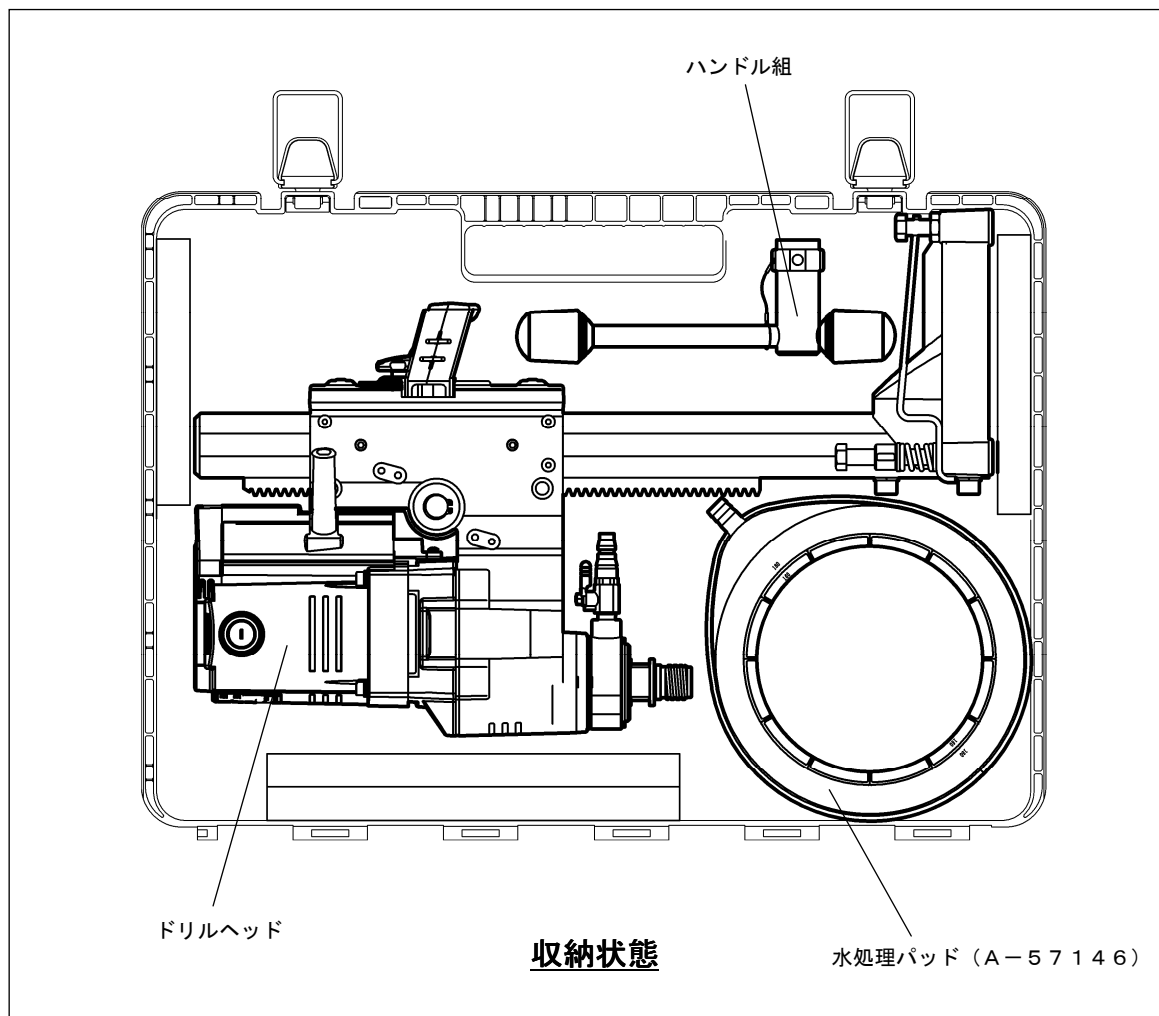
7. キャリングケース収納状態

⚠ 注意

ドリルヘッドのロックダイヤルは締めた状態で収納してください。

ポイント

1. 工具・ハンドル組等の小物がキャリングケース内で動かないように、スポンジ等で固定してください。
2. メインシャフト内（回転給水コック内）の水気はよくきり、よく乾燥させてから収納してください。
3. コアビットは収納できません



8. 使用方法

- ◎ コアドリルを固定する方法にはアンカーによる固定、真空パッドによる吸着などがあります。
ここでは、ポールベースのアンカーによる固定の方法を以下に記します。

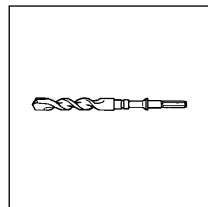
【1】 アンカー施工

- ◎ 使用するハンマドリルの取扱説明書に従い作業してください。

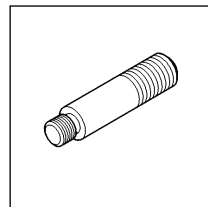
準備するもの



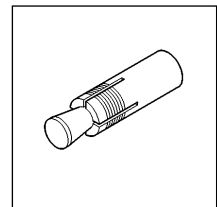
ハンマドリル
…1ケ



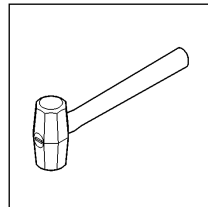
キリ
…1ケ



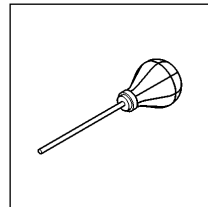
打込みホルダー
…1ケ



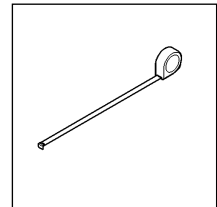
アンカー
…1ケ



ハンマー
…1ケ



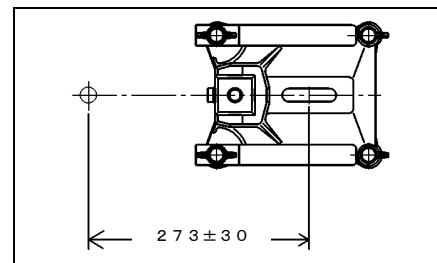
スポイト…1ケ



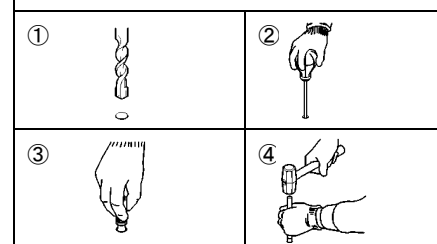
スケール
…1ケ

- ① 穴あけ位置から 273 ± 30 mmの位置に、ハンマドリルで下穴をあけてください。

アンカー	W3/8	W1/2
キリサイズ	14.5mm	18mm
削孔深さ	55mm	65mm



- ② スポイトで穴の中の切り粉を排除してください。
③ アンカーを穴の中に挿入してください。
④ 打込みホルダーをしっかり保持して、ハンマーで打込んでください。

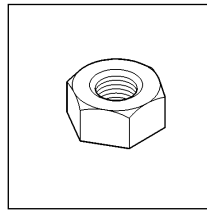
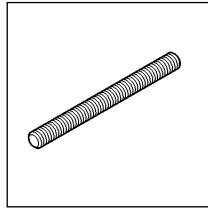


▲ 警告

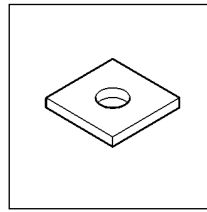
下穴の中に切り粉が残っている場合や、打込み不足はアンカーが抜けやすくなり大変危険ですから、アンカー施工の知識がある方が施工してください。

【2】 コアドリルの設置

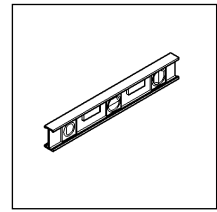
準備するもの



六角ナット
… 1ヶ



角座金
… 1ヶ



水準器
… 1ヶ

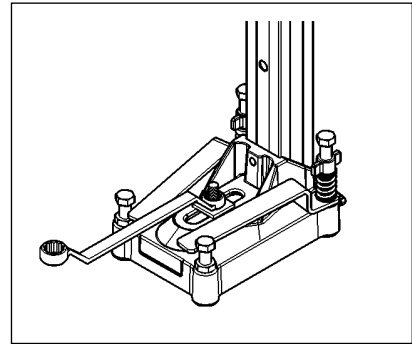
⚠ 注意

コアドリルをキャリングケースから取り出す時は、必ずロックダイヤルを「LOCK」にしてください。

- 1) 寸切ボルトをアンカーにねじ込み、ポールベースを設置し、メガネレンチ 17×21mmで六角ナットを締付け、仮固定してください。

⚠ 警告

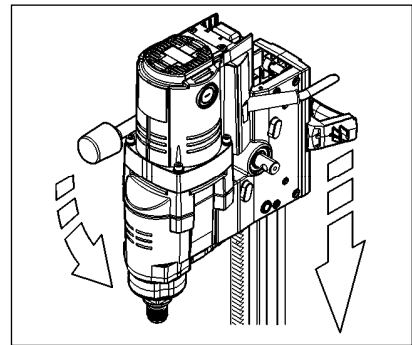
1. 寸切ボルトは、5山以上ねじ込んでください。ねじ込めない場合は、ねじ部に傷などがありますから寸切ボルトを交換するか、アンカーの打ちなおしを行ってください。
2. ポールベースが倒れないように、しっかりと支えて作業してください。



- 2) ドリルヘッドをポールに差し込んでください。

⚠ 注意

1. ドリルヘッドは、ゆっくり差し込んでください。
2. ドリルヘッドを落とさないように注意してください。



- 3) ワンタッチハンドルをドリルヘッドに差し込んでください。

ポイント

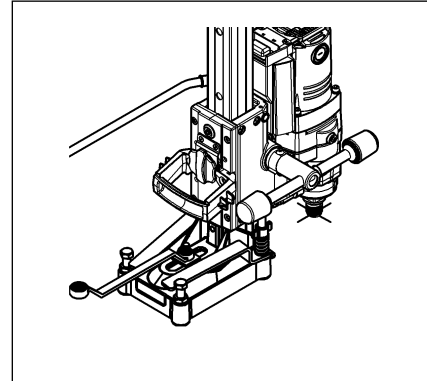
ご使用前に必ずクランプ調整を行ってください。（本書「定期点検」を参照）

- 4) 送りハンドルを回して、メインシャフト先端が穴あけ面にあたるまでドリルヘッドを移動させ、ロックダイヤルを「LOCK」にしてドリルヘッドを固定してください。

⚠ 注意

送りハンドルから手を離す時は、必ずロックダイヤルを「LOCK」にしてドリルヘッドを固定してください。

- 5) メガネレンチで六角ナットをゆるめ、ポールベースを移動させ、メインシャフトと穴あけ位置を合わせてください。
- 6) ポールベースがガタ付かないように、レベルボルトでレベル調整を行い、調整後はメガネレンチで六角ナットを締付け、ポールベースを固定してください。
垂直・水平の調整は、ポールに水準器などをあてて行ってください。



⚠ 注意

ポールベースがガタ付く場合は、再度レベル調整を行ってください。

【3】 コアビットの取付け

- 1) ロックダイヤルをゆるめ、ドリルヘッドをポールの上端付近にくるよう送りハンドルで移動させ、ロックダイヤルを締めてドリルヘッドを固定してください。
- 2) メインシャフトねじ部にグリスを少量塗布して、コアビットをねじ部の根元まで、ねじ込んでください。

⚠ 警告

コアビットの取付け・取りはずしは、必ず電源プラグを電源コンセントから抜いて行ってください。

⚠ 注意

1. コアビットを取扱う時は、ゴム手袋を着用し、けがのないように注意してください。
2. コアビットが落下しないよう、注意して行ってください。

ポイント

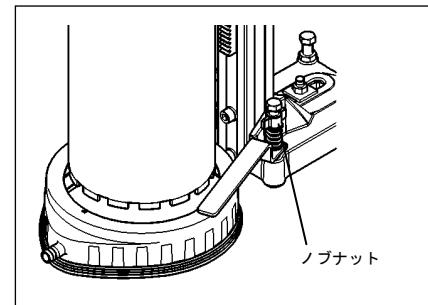
コアビットをドリルヘッドに取付ける時、グリスを塗布することにより、作業後の取りはずしが容易になります。

【4】 水処理パッドの取付け

- ◎ 水処理パッドを穴あけ位置に合わせて置き、水処理押さえ金具で押さえてください。
押付け力の調整は、ノブナットで行ってください。

⚠ 注意

1. 水処理パッドおよび水処理押さえ金具は、コアビットに接触しないように設置してください。
2. 水処理パッドを壁面に設置する場合は、排水口の角度に制限があります。パッドの口穴から、水があふれ出ないように注意してください。



【5】 排水処理の準備

1. 床面の排水処理例

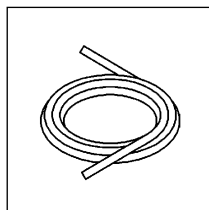
- 例 1) 水処理パッドの排水口に集じん機の吸引口を接続する方法。
例 2) 水処理パッド・手動ポンプなどで、バケツに吸出する方法。

2. 壁面の排水処理例

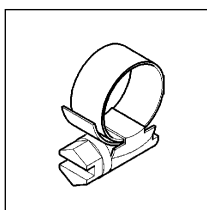
- 例 1) 水処理パッドの排水口に集じん機の吸引口を接続する方法。
例 2) 水処理パッドの排水口にホースを接続し、ホースの他方をバケツに受ける方法

【6】給水の準備

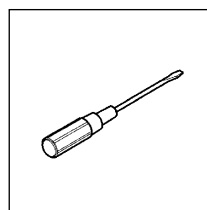
準備するもの



ホース
… 1ヶ



ホースバンド
… 1ヶ

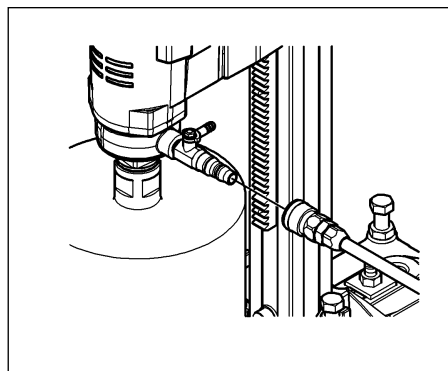
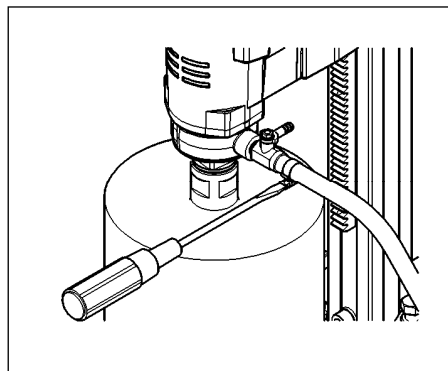


ドライバー
… 1ヶ

◎ 給水コックを閉じて水道からのホースを給水用カ
プラーまたはホースバンドで接続してください。

⚠ 注意

1. コアドリルの破損の原因になりますので、
給水は必ず清水を使用してください。
2. 穴あけ作業中に給水が止まらないようにし
てください。



【7】穴あけ作業

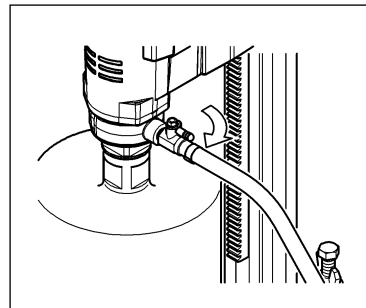
⚠ 警告

電源プラグを差し込む前に、スイッチが入っていないことを必ず確認してください。

- 1) 電源プラグを電源コンセントに差込んでください。
- 2) 水道の蛇口をあけ、給水コックを徐々に開き、給水量を調整してください。

⚠ 注意

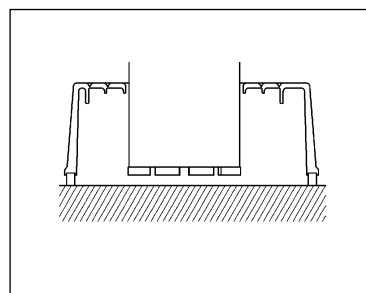
1分間に2リットル程度、給水してください。



- 3) ロックダイヤルを緩め、コアビット先端が、穴あけ面から少し離れる位置にしてください。

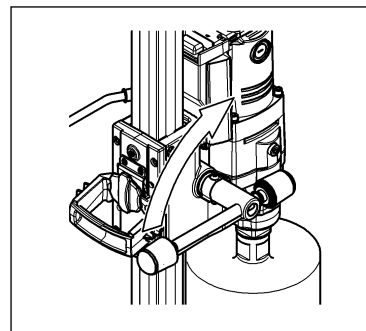
⚠ 注意

コアビットが穴あけ面に接した状態でコアドリルを起動させると、コアビットやコアドリルの破損の恐れがあり危険です。



- 4) スイッチを入れ、切込みを行ってください。

送りハンドルでコアビットが穴あけ面に軽くあたるまで、ドリルヘッドをゆっくり移動させてください。
5～10mmの深さまで軽く切込み、その後は一定の力で切込んでください。



⚠ 警告

1. 音や振動などに異常のある場合は、ただちにスイッチを切ってください。
2. コアビット回転中は、モータ部の風穴をふさいだり、風穴に物を入れないでください。また回転部分に触れないでください。
3. 送りハンドルを急に回すと、コアビットが穴あけ面に強くあたり、コアビットやコアドリルの破損および事故などの恐れがあり危険です。

⚠ 注意

送りハンドルに無理な力をかけると、コアビットの摩耗増加・切削能率の低下を招きます。

ポイント

サーキットブレーカーが作動し、スイッチが切れた時は、いったん送りハンドルでコアビットを穴から拔出し、スイッチを入れなおしてください。

- 5) 所定の深さまで切込んだら、給水を止め、送りハンドルでコアビットが穴から出るまでドリルヘッドを移動させ、ロックダイヤルを締めてドリルヘッドを固定してください。

⚠ 注意

1. 給水を止めたら、すぐにコアビットを穴あけ面から出してください。
2. コアビット内に残った水が飛散しないように注意してください。

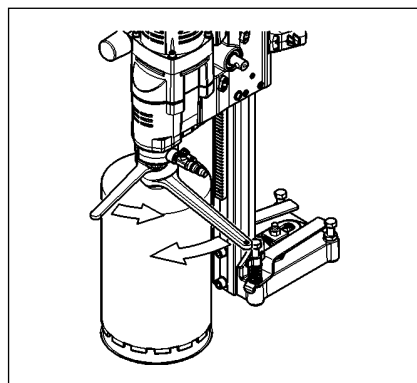
- 6) スイッチを切って、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。

⚠ 警告

1. 電源プラグを電源コンセントから抜く時は、コードを引張らないでください。
2. 濡れた手や手袋で、電源プラグ・電源コンセントに触れないでください。
感電する恐れがあり危険です。

【8】 穴あけ作業終了

- 1) ロックダイヤルをゆるめ、ドリルヘッドをポールの上端付近にくるよう移動し、ロックダイヤルを緩めて固定してください。
- 2) 水処理パッドを取りはずし、水処理押さえ金具を後方に回転させて、ノブナットを締め付けて固定してください。
- 3) 給水用のホースをはずし、片ロスパナを使用して、メインシャフトからコアビットを取りはずしてください。
- 4) ドリルヘッドをポールベースから取りはずしてください。
- 5) ポールベースを取りはずしてください。
- 6) 各部に付着しているノロや水気を取り除いてください。
- 7) ドリルヘッドをポールに差し込んでキャリングケースに収納できる位置まで移動し、ロックダイヤルを「LOCK」にしてください。
- 8) ワンタッチハンドルを取りはずし、コアドリルをキャリングケースに収納してください。



⚠ 注意

水処理パッドを取りはずす時、水処理パッド内に残っている排水や、ヘドロが出てくる恐れがありますので注意してください。出てきた排水は、集じん機などで吸取ってください。

ポイント

コアビットを取りはずした後、ねじ部にグリスを塗布しておく、錆防止になります。

9. 作業中のトラブルと対策

【1】 作業中のトラブルと対策方法

作業中に異常を感じたら、ただちにスイッチを切って、電源プラグを抜き、安全な状態で、下表にて原因の調査を行ってください。

トラブル	原因	対策方法
コアビットの回転が止まった	コアビットがロックした	本書「コアビットがロックした場合の解決方法例」を参照（22ページ）
	ギヤボックス部の故障	修理
	モータが停止した	「モータが停止した」の項を参照（21ページ）
コアビットがロックした	鉄片または切り粉などが、切削コアとコアビットの間に挟まっている	本書「コアビットがロックした場合の解決方法例」を参照（22ページ）
	セリが発生した	本書「セリが発生した」の項を参照（21ページ）
モータが停止した	スイッチの保護機能が作動した	「スイッチの保護機能が作動した」の項を参照（21ページ）
	カーボンブラシの異常	本書「定期点検」を参照（24ページ）
	モータ部の異常	修理
振動が大きい	切削コアが折れている	切削コアをコアビットから取出す
	ドリルヘッドのクランプ調整不良	本書「定期点検」を参照
	ポールベースのアンカー固定不良	再固定
	ポールベースのレベル調整不良	再調整
	メインシャフトの芯ブレ	修理
	コアビットの芯ブレ	新品交換
電源ブレーカが作動した	電源容量が小さい	電源容量を大きくするまたは、切込み力を弱くする
	故障	修理
スイッチの保護機能が作動した (サーキットブレーカー)	切込み力が強すぎる	切込み力を弱くする
	モータ/スイッチの故障	修理
	振動で作動することがある	「振動が大きい」の項を参照
切れ味が悪い	鉄筋を切削している	—
	給水量が多い	給水量を少なくする
	電源容量が小さい	電源容量を大きくする
	コアビットの目づまり	お買い上げの販売店または当社営業所に相談
	コアビットが摩耗している	新品交換
	セリが発生した	本書「セリが発生した」の項を参照（21ページ）

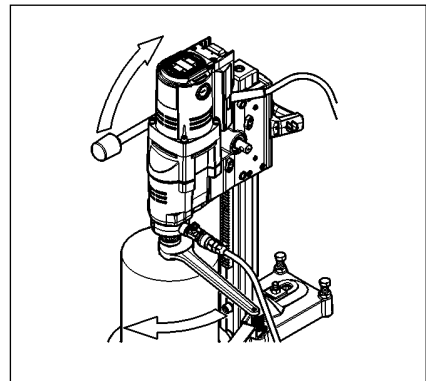
セリが発生した 本書「コアビットにセリ が生じた場合の解決方 法例」を参照 (24ページ)	切り始めに強く切込みすぎた	—
	切込み力が強すぎる	切込み力を弱くする
	給水量が少ない	給水量を多くする
	振動が大きい	「振動が大きい」の項を参照
	ポールベースが曲がっている	修理
コアビットが摩耗し、切削ミゾが細く なっている	新品交換	

* セリ… コアビットのボディー側面がコンクリート面に接し、回転の障害となること。

【2】 コアビットがロックした場合の解決方法例

▲ 警告
スイッチを切って、電源プラグを電源コンセントから抜いてから行ってください。

- ◎ 片ロスパナでコアビットをゆっくり回転させ、コアビットが抜ける位置を探りながら、送りハンドルでドリルヘッドを少しずつ引抜き方向に移動させ、穴あけ面より抜いてください。

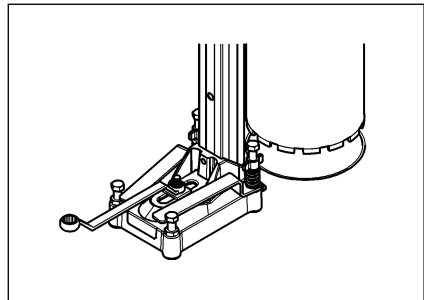


▲ 注意
送りハンドルに無理に力をかけると、 1. コアドリルの故障・破損 2. コアビットのチップの脱落 が起こる恐れがあります。

【3】 コアビットにセリが生じた場合の解決方法例

▲ 警告
スイッチを切って、電源プラグを電源コンセントから抜いてから行ってください。

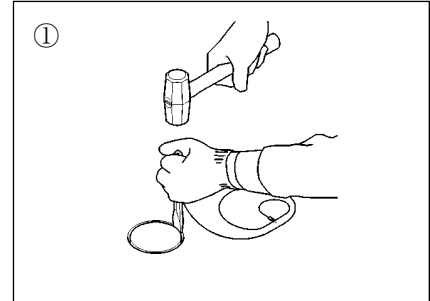
- 1) ポールベースの固定をゆるめ、セリの少ない位置に微調整し固定してください。
- 2) セリの部分を取除くため、コアビットを回転させ、穴の口元よりゆっくりと切込んでください。
- 3) 1)、2)を繰り返して行ってもセリが解消されない場合は、穴あけ位置を変更するか、大きいサイズの穴あけを行ってください。



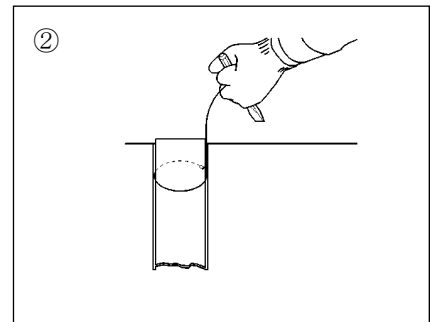
10. コア引抜き方法

◎ 切削コアの抜取り方法の一つとして、エボシタガネ仕組品による方法があります。

- 1) 切削溝にエボシタガネ仕組品のタガネ部分を差込み、ハンマーでたたいてコアを折ってください。



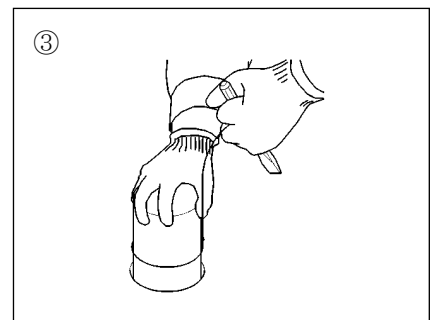
- 2) コアが穴の中でぐらつくようになりしたら、エボシタガネ仕組品のワイヤー部分を輪にして、コアにかけてください。



ポイント

ワイヤーをできるだけコアの奥にかけると、コアが抜きやすくなります。

- 3) エボシタガネ仕組品をゆっくりと引上げてコアを抜いてゆき、コアを持てるようになりしたら、手で切削コアを持って抜いてください。



▲ 警告

1. エボシタガネ仕組品で、コアを高く吊り上げないでください。
2. エボシタガネ仕組品は、コア抜き以外には使用しないでください。

1 1 . 点検・保守・修理

【1】保守

- 1) 作業後は、表面の清掃を行ってください。
ドリルヘッドの外枠は、ギヤケース部がアルミ製で、モータ部が合成樹脂製です。
モータ部外枠に、ガソリン・シンナー・石油・灯油類を付着させると、表面を痛めます。
モータ部外枠の清掃の時は、乾いた布か石鹼水を付けた布などで拭いてください。
- 2) モータ部の保守
使用後は、ドリルヘッドをポールベースに固定して、モータを無負荷運転させ、
内部に風を送り、内部のゴミ・ほこりなどを排出してください。

【2】点検

- ◎ ドリルヘッド・ポールベース・水処理パッド・水処理金具・コアビットに、亀裂・破損はないか、またコード被覆部・電源プラグに、亀裂・損傷はないか点検してください。
異常があった場合、お買い上げ販売店または、当社営業所にお申し付けください。

【3】定期点検

1. 各部取付ねじの点検

- ◎ 各部取付けねじのゆるみなどを定期的に点検し、ゆるんでいる所は締めなおしてください。

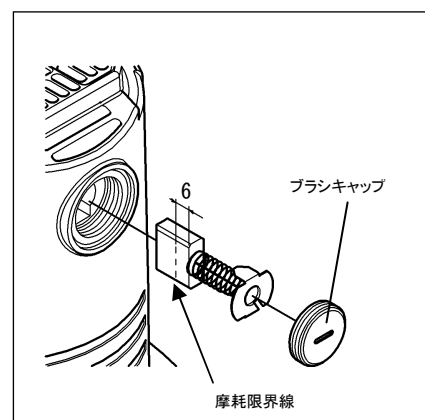
⚠ 注意

ゆるんだままで使用すると、事故などの原因となり大変危険です。

2. カーボンブラシの点検・交換

1) カーボンブラシの点検

- カーボンブラシは定期的に取りはずして点検してください。
- カーボンブラシが摩耗限界線まで摩耗したら新品と取り替えてください。このとき、カーボンブラシ内で前後にスムーズに動くか確認してください。
- 新品と交換する際は、必ず当社指定のカーボンブラシをご使用ください。



2) カーボンブラシの交換

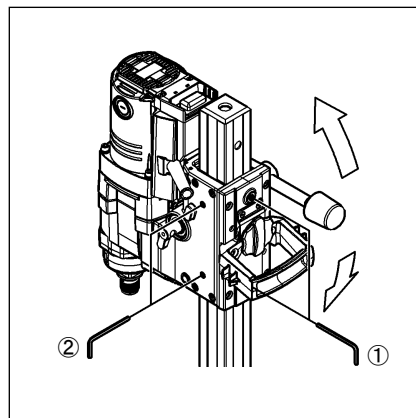
- ⊖ドライバでブラシキャップを取りはずしてください。
- 中から摩耗したカーボンブラシを取り出し、新品と取り替えて、ブラシキャップを組付けてください。
- カーボンブラシは2個で1組になっております。取り替えるときには、必ず両側とも同時に行ってください。このとき、カーボンブラシ内で前後にスムーズに動くか確認してください。

⚠ 注意

新品と交換する際は、必ず当社指定のカーボンブラシをご使用ください。

3. クランプ調整部分の点検・調整

- ◎ 送りハンドルを動かしながら、六角棒レンチ（4mm）でクランプ部の4カ所のクランプ調整ねじをバランスよく締め込んでゆき、ポールとクランプとのすきま調整を行ってください。締め込みの目安としては、①側はガタつきがなくなる所まで締め込み、②側はガタつきがなくなる所まで締め込んだ後、1/4回転戻す程度（床面取付時にドリルヘッドが自重で下がらない程度）です。



ポイント

1. クランプ調整ねじを強く締めすぎると、送りがおもくなります。
2. スライド面が摩耗してガタが生じてきましたら、調整が必要です。

4. グリスの交換について

- ◎本機にはグリスが封入されています。本機を長持ちさせるために、1年ごとにグリスの交換をお勧めします。その際に、破棄処理等の問題もありますので、お買い上げの販売店または、当社営業所に修理お申し付けください。

【4】 修理について

- ◎ 本製品は厳密な精度で製造されています。したがって、もし正常に作動しなくなった場合には、決してご自分で修理をしないで、お買い上げ販売店または、当社営業所に修理をお申し付けください。

株式会社マキタ
愛知県安城市住吉町 3-11-8 〒446-8502
TEL. 0566-98-1711 (代表)

E2090-0